

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部 局 名	教育委員会
	課 名	生涯学習課
	係 名	生涯学習係
	記 入 者	館野 友美子
	電話(内線)	32-1899

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	計画 予算	友好都市交流事業 友好都市交流事業費	(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ			(6) 事業主体		市	
① 事業の区分	主要事業			(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)
② 施策コード	46202	(総合計画掲載ページ 115 ページ)		会計区分	一般会計	
基本目標(政策)	4 未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)			財源区分	市単独	
基本施策	6 国や地域を越えた交流の推進(国際交流・地域間交流)			予算科目	款 10	項 5
施策	地域間交流の促進			予算書上の 事業名称	友好都市交流事業 (予算書 166 ページに掲載)	
施策内容	友好都市福井市との交流事業の推進					
(5) 事業期間	開始 平成 14 年 7 月から			(8) 事務分類	自治事務	
	終了 年 月まで (力年)			根拠法令	社会教育法	

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象者(だれを・何を)	市内小学6年生	(3) 事業内容(具体的に何を行うのか、そのために何を行うのか)	<ul style="list-style-type: none"> ・友好都市の相互訪問を通し、結城市と福井市の歴史的な関わりを学ぶ ・藍染めや機織り体験等のさまざまな体験をすることで歴史や文化に触れる。 ・共同作業、宿泊をともにすることにより子どもたち同士の交流を深める。 ・事前事後学習会及び事業実施報告作品展等を行い、事業の効果的な実施と広報を図る。
(2) めざす姿(どのような状態にしたいのか・意図)	結城市の子どもたちが結城市の歴史や文化を知り、さらに、福井市とのかかわりや福井市の歴史・文化等を学び、福井市の子どもたちの相互交流を図る。 様々な体験、交流活動を通し、積極性や協調性を養い、結城を担うリーダーを育成する。	<p>■ 事業の全体計画(※計画等がある場合、H24年度末時点で記入)</p> <p>・ 総事業費 千円 ・ 進捗率 %</p>	
(4) 事業開始のきっかけや市民・議会の要望や意見、他市の状況など(※1-(8)事務分類 法定受託の場合は、記入必要なし)			
結城と福井の歴史的つながりを縁としてH14年4月に友好都市締結が行われ、小学生相互交流が始まった。活動プログラムは結城ならではの内容を盛り込み、また、地域住民と多く関わりを持つようしており、福井市の指導者及び子ども親善大使から好評である。実施主体が福井市では子ども会ということで、平成22年度から担当部署が指導課から子ども会を担当している生涯学習課に所管替えとなった。			

3. 事業コスト及び改善措置

行政評価	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映
実施計画			
● 予算内訳	実績・決算額(千円)	予算額(千円)	計画額・見込額(千円)
	24 年度	25 年度	26 年度
	27 年度	28 年度	
事業費	事業内容		
	旅費	109	149
	需用費	57	58
	補助金	497	497
	合計	663	704
財源	国庫支出金(千円)		
	県支出金(千円)		
	地方債(千円)		
	その他特定財源(千円)		
	一般財源(千円)	663	704
	合計(千円)	663	704
	補助・起債制度名		

(2) 平成25年度以降の改善・改革点(※ 記入の必要なし)

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
実施内容	実施日数	目標値	日		9	9	9
		実績(見込)値		9	9		
		目標値	回				
		実績(見込)値					
(2) 成果指標（事業実施による施策指標の達成度）							
施策の指標	参加児童数	目標値	人		8	8	8
		実績(見込)値		8	8	8	8
		達成率		100.0 %	100.0 %		
		目標値	人				
		実績(見込)値					
		達成率		%	%		

5. 事業評価

(1) 平成24年度の行政評価結果をうけて、平成24年度に取り組んだ改革改善点について記載してください。
 子どもたちが自ら考え動くことができるプログラムを企画した。活動してきた内容を報告するため、報告展示会を開催したり、広報紙に記事を掲載したりした。また、学習会で作成した活動報告パネルを各小学校に順番でまわし、事業自体の報告、また次年度への呼びかけに有効に使われた。

(2) 項目別評価

評価項目	評価の指標	客観的評価点及び評価理由
1. 目的妥当性	①事業の必要性、緊急度は高いですか？	4 依然、必要性が高い(または、優先的に対応しないと相当な影響が出る)
	②行政が実施すべき事業ですか？	2 民間等でも実施できる(実施している)事業である
	③受益者が特定の個人や団体に偏っていませんか？	3 どちらとも言えない
9 B	補足 福井市では市子連に委託し事業を実施している。対象者は市内小学6年生だが、実際の募集人員は8名のため限られてしまう。	
2. 効率性	④事業の手段(やり方)は適切ですか？	3 どちらとも言えない
	⑤コスト効率、人員効率は高まっていますか？	3 どちらとも言えない
6 B	補足 実施主体は結城では教育委員会、福井市では市子連である。結城市での現状は、役員が1年単位で変わってしまう、普段仕事を持っているため引率が難しい、委託となった場合の参加者の選抜、実施方法についての協議が必要であり、課題が多い。	
3. 有効性	⑥活動指標、成果指標は達成されていますか？(指標達成度)	4 概ね目標水準に達している
	⑦事業の成果の進捗は順調ですか？(進捗度)	4 計画どおり、順調に進んでいる
	⑧事業のめざす姿は基本施策の目標達成に貢献できますか？(貢献度)	4 基本施策への効果が高まる、または基本施策の効率化が図れる
12 A	補足 事業実施後も各家庭間の交流がみられる。事業にかかる成果物の作成に積極的に関わる様子がみられる。	
4. 総合評価	事業全体について評価し、問題点、課題等を指摘してください。 参加者の様子や、感想・報告物を見ると将来の結城市を担う子どもたちにとってこの事業が有効であったと評価できるが、結城市福井市ともに参加希望者が毎年少なく選考に苦慮しているところである。プログラムの充実や、対象者へのPRを図りたい。また、親善大使として活動してきたことを市民に伝えられるように周知方法を検討していかなければならない。	
	27 / 40 [5×8項目]	
5. 対応策・提言等	この事業をどのように改善・改革をしていきますか？	
	平成25年度 [事業実施段階 における改善点]	子どもたちに積極的に関わってもらえるプログラムを計画。 市子ども会育成連合会はじめ、地域の方々の協力を受けながら実施していきたい。
	平成26~28年度 [今後の事業見込 による改善点や 改革点]	

6. 事業の方向性判断

評価主体	25年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注)記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持、成果向上・コスト削減、成果維持・コスト維持、成果維持・コスト削減)	友好都市交流事業であり、未来を担う子どもたちが親善大使となり交流することで、両市の友好がさらに深まる。
(3) 最終評価 企画調整会議において 評価を行う		上記評価のとおり